

Ⅲ グループホーム清久

1. 実施事業

(1) 定員と利用率

令和6年3月31日現在

| 事業名 | 定員 | 利用率 |
|--------|-------|-------|
| 共同生活援助 | 定員44名 | 94.9% |
| 短期入所 | 定員1名 | 49% |

(2) 利用者年齢構成

| | | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80代 | 総数 |
|------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 清久 | 男性 | | | 2名 | 2名 | 2名 | | | | 7名 |
| | 女性 | | | | | 1名 | | | | |
| 上清久 | 男性 | | 1名 | | 1名 | | | 1名 | | 3名 |
| | 女性 | | | | | | | | | |
| しらはた | 男性 | | | 1名 | | 1名 | | 1名 | 1名 | 7名 |
| | 女性 | | | | | | | 2名 | 1名 | |
| ハイツ | 男性 | | | 1名 | | 1名 | | 1名 | | 3名 |
| | 女性 | | | | | | | | | |
| こがらい | 男性 | | | 2名 | | 2名 | 1名 | | | 7名 |
| | 女性 | | | | | 2名 | | | | |
| こすもす | 男性 | | | | | | | | | 4名 |
| | 女性 | | | | | 2名 | | 2名 | | |
| うちや | 男性 | | | | 2名 | 1名 | | | | 4名 |
| | 女性 | | | | | | 1名 | | | |
| おぎそね | 男性 | | | | 2名 | 3名 | 1名 | 1名 | | 7名 |
| | 女性 | | | | | | | | | |
| こぎそね | 男性 | 1名 | | | | | | | | 1名 |
| | 女性 | | | | | | | | | |
| 合計 | | 1名 | 1名 | 6名 | 7名 | 15名 | 3名 | 8名 | 2名 | 43名 |

| 平均年齢 | | |
|------|-----|-----|
| 男性 | 女性 | 全体 |
| 49歳 | 65歳 | 54歳 |

(3) 障害支援区分

| | 未判定 | 区分1 | 区分2 | 区分3 | 区分4 | 区分5 | 区分6 | 計 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 男性 | | | 10名 | 3名 | 10名 | 6名 | 1名 | 30名 |
| 女性 | | | | 5名 | 5名 | 3名 | | 13名 |
| 計 | | | 10名 | 8名 | 15名 | 9名 | 1名 | 43名 |

2. 令和5年度の重点実施事項

(1) 高齢化、重度化対策

高齢者施設の職員による介護技術研修を11月に計画していたが、ホームでインフルエンザ発生のため実施できなかった。介護保険サービスを利用している利用者2名が、夜間転倒防止のため離床センサーのレンタル利用を行った。

(2) 老朽化したホームの整備

こすもすについては、電源増設工事を行ってエアコンの台数を増加した。上清久については、雨漏り対策として大家と協議を行い、次年度に修繕を実施することで合意した。老朽化への対応は引き続き行っていく。

(3) 権利擁護、虐待防止の意識向上

障害特性の理解を深める研修を9月と3月に実施し、虐待防止の意識向上のための意見交換を年10回実施した。

3. 具体的取組み

(1) 利用者支援

ア 地域生活者としての自立支援

(ア) 老衰で寝たきりとなってしまった利用者に対し、最後までグループホームで過ごしたいという本人の意思に寄り添い、職員が交代で支援を続けた。最期はホームで看取りを行うこととなった。

(イ) サテライト型住居は、11月に入居者が決まり、関係機関と連携しながら、単身生活に向けた支援を行った。

イ 健康管理

(ア) 数値や食事量に問題を抱える利用者に対しは、医師や管理栄養士と相談して食事内容を工夫し対応した。

(イ) 久喜けいわの機能訓練棟を利用して、2ヶ月に1回、身体を動かす機会を提供した。体重の減量まではいかなかったが、楽しみながら運動できた。

ウ 余暇活動の充実

(ア) 利用者1名がボランティアに勉強を教わりながら英検を受験した。合格はできなかったが今年も再受験を希望し、意欲的に取り組んでいる。

(イ) 絵画、写真など、創作活動の好きな利用者3名が啓和会の作品展に出展した。

エ 高齢化、重度化対策

(ア) 介護保険サービスを利用している利用者について、地域包括支援センターと相談しながら利用日を増やす対応を行った。障害支援と介護保険のサービスを併用しているので、双方の情報交換を密に行いながら対応した。

(イ) 親族や後見人が不在であったり、緊急時の保証人確保が難しいケースについては、今年度は対象者がいなかったため具体的な協議は行わなかったが、将来的には対応を進めなければならない課題である。

(ウ) 医療的支援を要する利用者が週2回の訪問看護を受けた。寝たきりとなった利用者に対しては在宅診療を受けることができた。

(2) 働きやすい職場づくり

- ア 日用品の買い物や薬の配薬などの業務については、一人仕事とならないよう分担して対応するしくみを作った。
- イ 世話人 2 名の面談を行い、日ごろの悩みやストレスを溜め込まないように配慮した。面談以外でも電話や LINE にて随時相談する体制をとった。

(3) 人材育成

- ア 発達障害と行動障害の事業所内研修を 2 回行った。外部研修では、埼玉県グループホーム職員研修に新任 2 名が参加した。
- イ ホーム会議については、8 ホーム中 2 ホームでの開催となった。そのほか、毎月、正職員を中心に行う会議に世話人も参加できるようにし、支援を振り返る機会を作った。

(4) リスク管理

- ア 家電による火災発生を防ぐため、家電製品の状況と使用方法について、全ホームで点検を行った。また、各ホームの設備や危険個所の点検も実施し、コンセントや電気スイッチの不具合などを確認した。
- イ 不審者侵入を防ぐため、センサーライトを全ホームに設置した。

(5) 感染症対策

- ア 感染防止のための対策を継続して行ったが、15 名のコロナ感染者が発生した。他法人の事業所に通所している利用者もいるため、密な連絡をとりながら対応した。
- イ 感染者が発生したときに備えた勤務シミュレーションを行っていたため、勤務調整等の対応はスムーズに行えた。人手が足りない時には他事業所職員の応援を本部に要請し、久喜けいわやいちょうの木からの応援で対応した。

(6) 地域交流

- ア 地域のごみゼロ運動に 3 回、夏まつり天王様、清久運動会、地域自主防災訓練に参加した。地域の方から声をかけてくれたり、助けてくれたりする場面が多くあった。
- イ 地域の自主防災訓練に、職員 1 名利用者 2 名が参加した。心肺蘇生や A E D 講習では、地域住民に対してグループホームに A E D を設置しているアナウンスもできた。

(7) 事業運営

- ア 利用率の向上
2 月末まではサテライトホームも含めたすべてのホームが満床となり、利用率アップにつながった。体験利用やショートステイも、コロナ感染時を除き最大限の利用となった。